

その数字は、鏡なのか 文章A

年 組 番 名前 _____

実力を伸ばすクラス 偏差値のめやす 50～60程度 高2～高3

この紙のゴール：同じ話題の2つの文章を読み、2人が壁に貼った勉強時間を「ただ映すもの」と見るか「勉強の中身を変えるもの」と見るかで分かれていることを見つけて、対立点を1文で言えるようにする / 目安25分（本文＋設問）。本文はこの教材のための書き下ろし（初見用）です。

- [1] Ask a student how long they studied last week, and you will get a guess. Guesses are rarely honest in either direction: some students remember the hour they planned to study, and others forget the hour they really did. Neither kind of guess is a lie, but neither is much use for planning.
- [2] A study record replaces the guess with a number. Each night you write down the minutes you spent, subject by subject. It takes thirty seconds, and after two weeks you know something about yourself that you did not know before.
- [3] The record becomes more useful when it is shared. When the class averages are put on the wall, each student can see where they stand. Many are surprised, and not always in the direction they expected.
- [4] Some teachers worry that this puts pressure on students. But the number itself asks nothing of anyone. It is only a mirror: it shows the minutes you have already spent. A mirror does not change your face; it only lets you see it.
- [5] Others say that minutes are not learning, and that a number cannot tell you how well you studied. That is true. But minutes are where learning happens. A student with no minutes will not learn much, however good the plan. Minutes are not the whole of study, but they are the part we can count.
- [6] So the advice is simple: record, compare, and then decide. The deciding is yours. The record only gives you something honest to decide with.

〔語注〕 average＝平均 pressure＝重圧・プレッシャー direction＝向き

本文には自由に書き込んでください。つながりの語（But / Yet / however）に印をつけ、段落の左に「認める／切り返す／例／主張／提案」とメモすると、大問1がそのまま解けます。

その数字は、鏡なのか 文章B

年 組 番 名前 _____

文章Aと同じ話題について、Aを読んだ別の書き手が書いたものです。Aのどこに反対しているかを探しながら読みましょう。

[1] I keep a study record myself, and I have nothing against writing down minutes. My difficulty is with one word in the argument: mirror.

[2] A mirror does not care what you do in front of it. A number on a wall does. Once minutes are counted and compared, students begin to choose the kind of study that produces minutes: copying notes neatly, reading the same page again, sitting with the textbook open. Twenty minutes of hard thinking about one problem leaves little to show, and it begins to look like a waste. No one decides this. It happens one evening at a time.

[3] So the record does not only show the study; it slowly changes which study is done. The minutes go up, the thinking may go down, and the chart on the wall will call this progress.

[4] I would keep the record and change what goes on the wall. Keep the minutes in your own notebook. On the wall, put one sentence from each student: something I could not do last week and can do now.

〔語注〕 neatly=きちんと・きれいに progress=進歩

Aと同じところに線、ちがうところに波線を引きながら読むと、対立点を答える設問がそのまま解けます。



その数字は、鏡なのか 設問

年 組 番 名前 _____

文章A・B（前の紙）を見ながら答えてかまいません。

大問1 **それぞれの主張** AとBの筆者が、いちばん言いたいことを日本語で書こう（各20字以内）。

(1) 文章Aの筆者の主張 **思考・判断・表現**

4点

(2) 文章Bの筆者の主張 **思考・判断・表現**

4点

大問2 **対立点** 2人の意見が分かれている場所について答えよう。

(1) AとBは、勉強時間を記録すること自体には意味があるという点では一致している。では、どこで分かれているか。40字以内の日本語で書きなさい。 **思考・判断・表現** 6点

(2) Bの[3]段落に the chart on the wall will call this progress とあるが、筆者はなぜそれを問題にしているのか。30字以内で書きなさい。 **思考・判断・表現** 5点

大問3 **読み取り** 本文の内容に即して答えよう。

(1) Aの[4]段落で、筆者は「重圧がかかる」という心配にどう答えているか。 **思考・判断・表現** 答え（ ） 3点

- ア 重圧は勉強に欠かせないものなので、少しくらいは心配しなくてよいと言っている
- イ 心配はもっともなので、クラスの平均は壁に貼らないほうがよいと言っている
- ウ 重圧を感じる生徒は、記録をつけるのをやめてもかまわないと言っている
- エ 数字そのものは何も求めないので、重圧は数字からは来ないと言っている

(2) Bの[2]段落 A number on a wall does. の does が表す内容は。 **知識・技能** 答え（ ） 3点

- ア 壁の数字は、前で何をするかを気にする
- イ 壁の数字も鏡と同じで、前に立つ人の顔を映すだけだ
- ウ 壁の数字は、勉強した分数をいつも正しく数えている
- エ 壁の数字も鏡と同じく、前で何をしても気にしない

その数字は、鏡なのか（標準） | 解答と採点

解答 選択問題

大問3 読み取り		
(1)	エ	the number itself asks nothing of anyone. It is only a mirror. 数字は何も求めない鏡だ、という答え方。この「鏡」の一語に、Bが[2]で反対する。
(2)	ア	does は直前の文の care what you do in front of it の代わり（代動詞）。鏡は前で何をしても気にしないが、壁の数字は気にする＝人の行動に関わってくる、という対比。

記述の採点 模範解答と部分点の刻み

刻みは答案を見る前に配点を決めておくための表です。採点しながら基準を作ると、最初の10枚と最後の10枚で線が動きます。

大問1(1) 文章Aの筆者の主張 4点

勉強時間は記録して比べるとよい（15字）

配点	その点を与える条件
2点	「記録する・数字にする」が入っている
2点	「比べる・壁に貼って共有する」が入っている

大問1(2) 文章Bの筆者の主張 4点

記録は続け、壁に貼るものを変えるべきだ（19字）

配点	その点を与える条件
2点	記録そのものは続ける（手元に置く）、が入っている
2点	壁に貼るものを変える（分数ではなく、できるようになったこと）が入っている

「記録に反対」とだけ書いた答案は0点。Bは[1]で自分も記録をつけていると書いている。

大問2(1) AとBは、勉強時間を記録すること自体には意味があるという点では一致している。では、どこで分かれているか。40字以内の日本語で書きなさい。 6点

壁の数字が、勉強をただ映すだけか、どんな勉強をするかまで変えるかという点。（37字）

配点	その点を与える条件
3点	Aの見方（数字はただの鏡・何も求めない・映すだけ）が書けている
3点	Bの見方（比べられた数字は、どんな勉強をするかまで変える）が書けている

「Bは記録に反対している」は0点（立場の要約であって対立点ではない）。「Bは壁に貼るものを変えろと言っている」は3点—Bの主張だが、Aの見方と並べた形になっていない。

大問2(2) Bの[3]段落に the chart on the wall will call this progress とあるが、筆者はなぜそれを問題にしているのか。30字以内で書きなさい。 5点

考える勉強が減っても、分数が増えれば表は上がって見えるから。（30字）

配点	その点を与える条件
3点	表（壁の数字）は分数しか数えないので、分数が増えれば上がる、が書けている
2点	考える勉強が減っていることは表に出ない（悪い変化が進歩に見える）、が書けている

その数字は、鏡なのか（標準） | 出題のねらい

出題のねらい 定期テストに移すときの観点マップ

この2人は、勉強時間を記録することそのものでは争っていません。Bは[1]で、自分も記録をつけていると書いています。争点は壁に貼った数字が、勉強をただ映すのか、どんな勉強をするかまで変えてしまうのかだけです。Aはそれを「鏡」と呼び、だから決めるのは本人だと言う。Bは、比べられた数字は分数の出やすい勉強を選ばせていくと返す。同じ「60分」が、Aには済んだことの記録、Bには次の晩の目標として働いています。答案でいちばん多いのは「Aは記録に賛成、Bは反対」―立場の要約であって、対立点の特定ではありません。ここに手が届いた生徒は、Bの[3]（分数は上がり、考える時間は減り、表はそれを進歩と呼ぶ）がAの[6]（記録は正直な材料を渡すだけ）への正面からの答えになっていることまで読めます。

型	観点	テストでの使い方
それぞれの主張（記述）	思考・判断・表現	2つの文章の主張を1文にたたむ。3版共通の骨格で、「Bは記録に反対」と書いた答案はここで止まる
対立点の特定	思考・判断・表現	段3の芯。基礎は選択、標準・発展は記述。壁の数字を「映すもの」と見るか「行動を変えるもの」と見るかで分かれたことを言えるか
論の運びの読み取り	思考・判断・表現	Aの[4]（数字はただの鏡）にBの[2]（鏡は気にしないが、壁の数字は気にする）が正面から答えている、という対応づけ
語句の意味・下線部和訳	知識・技能	基礎・標準は文脈からの推測（does が何の代わりか）、発展は和訳。代動詞と構文の精度をここで測る
自分の考えを書く（英語）	思考・判断・表現	発展版のみ。両方にふれて50語。読み比べを表現につなぐ出口

大問1（それぞれの主張を1文で）は3版とも同じ問いです。配り分けでも、ここだけは同じ力を測っています。

3つの版の使い分け

論題と対立の中身は3版共通で、変えているのは英文の長さ及答案方です（基礎＝対立点を選ぶ／標準＝日本語で書く／発展＝日本語の記述に英語の意見を1問足す）。同じクラスで配り分けでも、答案は同じ観点で並べて読めます。